

中期5カ年ビジョン策定に関するお知らせ

当社は2019年度から2023年度までの中期経営ビジョンを策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 基本方針

前中期経営ビジョンの期間中においては大きな工場事故や自然災害があり、弊社は臨機に製造数量等を変更し、事業法アルコールの安定供給に努めました。本中期経営ビジョンにおいてはこのような市場の変化に更に柔軟に対応できる製造体制を構築し、事業法アルコールの安定供給基盤の強化を図ることを主たる目標とします。

II. 主要施策

1. アルコール事業

発酵、合成を問わず、供給予備力の整備、強化を推進してまいります。

1-1 発酵アルコールの供給予備力の充実

(1) 鹿島工場のデボトルネックング

鹿島工場の既存設備の更新等により生産・出荷能力を増強します。

(2) 鹿島工場の予備系列の新設

安定供給の基盤をより強固なものとするため、鹿島工場に予備系列(300kl/日)を増強し、供給力二重化を図ります。

1-2 継続取引先への安心・安全な供給の確保

おいたち情報の充実を図り、トレーサブル販売における迅速な緊急時対応の仕組みを確立いたします。

2. 関連事業

事業全般について、そのあり方を根本から見直すこととします。2019年度に今後の事業展開を計画し、2020年度以降の目標設定を行います。

2-1 新製品の開発

(1)手指消毒剤

顧客ニーズを十分把握し、価格競争力のある改良品等の開発を検討します。

(2)農業関連製品

過去事例の実績データの蓄積・吟味や圃場試験等を行いつつ新製品の開発を行います。

3. 人材力の向上

3-1 人材力の量的質的向上

業務の高度化、業務量の拡大等により必要人員が増加することから採用を拡大するとともに、ベテラン社員の活用を促進いたします。また、研修を充実させるほか、資格取得を奨励し、人材力の向上を図ります。

3-2 働く環境の整備

新社宅を建設するほか、社員のための各種制度を整備して、働きやすい職場環境づくりを行ってまいります。

4. 利益目標と利益処分の方向

4-1 利益目標

着実に年間 6 億円の営業利益を確保する企業体質を構築し、今後、大型投資が予定され、限時的に設備償却負担が極めて大きくなると想定されますが、この場合においても EBITDA 年間 12 億円の確保を目指します。

4-2 配当方針

1 株当たり 1,000 円の安定配当を継続します。

4-3 設備投資、大口修繕の見通し

本ビジョン期間中において約 200 億円の設備投資及び大口修繕を実施する見通しとなっています。とりわけ鹿島工場で計画されている大型投資については、日本アルコール産業グループ各社が協力し、本ビジョン計画期間の利益の相当部分を積み立て、全額自己資金で賄うとともに、その償却負担は極力合理化努力等で吸収し、お客様の負担を回避すべく努力します。

以上